



学園通信

練馬区立大泉学園中学校

平成31年2月26日発行 校長 晴佐久和彦

平成が終わり新時代へ

副校長 益子 文彦

平成が終わろうとしています。テレビなどではこの30年間の様々な事件や社会現象をまとめ、平成という時代をふりかえています。私が教員になったのは昭和63年4月1日でした。初任の1年間の中で元号が変わり、まさに私の教員生活は平成30年間そのものと言っていいと思います。

私が物心ついたころは昭和40年代で日本が経済的に豊かになったとは言っても個々の家庭で見ると貧しい家庭もまだまだありました。風呂もない6畳のアパートに4人家族で住み、母は内職、父はタクシーの運転手をして働き、ふろ付きの一軒家に住むことを夢に日々仕事に精を出していました。両親には誇れる学歴はなく、学歴でいやな思いをしたからでしょうか、子ども達に学歴を付けさせることで安定した収入と生活を送ることができると考えていました。しばらくして荒川区のアパートから練馬区貫井に一軒家を購入し、毎日好きな時間にふろには入れる様になりました。私の兄は都立の工業高校に進学し、大学へは推薦で進学しました。そして、大学の研究室関連の上場企業に就職しました。一方の私は、都立の普通科の高校に入学が決まりました。当時の都立高校の普通科は学校を選ばず、私が受けたのは34群という大泉、石神井、井草の3校でした。合格の掲示板にあった学校はどこにある学校なのだろうと思ったことを覚えています。浪人して大学へと進む頃には日本社会はバブルのまっただ中になっていました。大学生の間でも「株で〇十万儲けた」などの話が飛び交っていました。貧乏学生の私にとってバブルとはまさに縁の無い話でした。私は大学を卒業したものの教員採用試験には失敗してしまい、次年度以降は生徒・児童の数の減少などから教員の採用人数が目に見えて減って厳しい就活状況となり、何度受験してもなかなか合格できない状況になってしまいました。そんなとき、推薦で大学に行き、教授の推薦で就職した兄をうらやましく思ったり、社会状況をねたんだときもありました。その後、何とか教員になることができ、教員として30年間はその時代や社会に求められた「ゆとり教育」の実践や「生きる力」の育成などといったことに取り組んできました。

改めて考えてみると時代とは何でしょうか。私の経験でも社会全体を覆う雰囲気・環境・人の考え方は確かに昭和から平成へと変わっていきました。そして、昭和の中でも変化があり、平成の中でも変化がありました。私たちにとって大切なことは、その時の社会全体の雰囲気に流され、我を見失わないようにすることではないでしょうか。生まれる日時や時代を選ぶことはできません。そして、現在の社会環境も選ぶことはできません。時代や社会のせいにして今の自分の至らなさを正当化しても何ら変わることはないのです。しかし、今の社会を変えることは難しくても未来の社会はこれから変えることができます。そして、未来の社会を変えていくのは若い中学生の皆さんののです。約1ヶ月で義務教育を終え社会に出て行く3年生は、過去の教訓や今まで保護者の方や学校で教わったことをベースにして自分の考えをしっかりと持ち、新しい時代の日本社会を創っていきましょう。

スキー移動教室

2年生は2月7日(木)～10日(日)の3泊4日で長野県にある武石少年自然の家本館に宿泊し、番所ヶ原スキー場でスキーの講習を受けてきました。宿舎に着いて最初の難関はスキー靴を履くことでした。生徒達はプラスチックでできた固いスキー靴に足を入れるところから苦戦していました。靴を履けてもバスへの移動が思うようにならず、慣れない靴に手こずっていました。スキー場で開校式後に各班に分かれて最初の講習が始まりました。1日目は東京も長野も春のような陽気でゲレンデも圧雪したばかりで大変条件が良かったです。最初の講習は準備運動など雪になれることから始まり、物足りなさを感じた生徒もいたかもしれません。

2日目は初日とは変わって気温が下がり、溶けた斜面がアイスバーン状態となり生徒達も悪戦苦闘していました。しかし、スキー技術はみるみる上達し、上のリフトを使う班もありました。

3日目は最後の講習となり多くの班で上まで行くことが出来ていました。この頃になると生徒達もスキーの楽しさを体験し、積極的に滑っていました。

スキー移動教室は天候にも恵まれ、それぞれ充実した4日間になったことと思います。スキーの技術だけではなく、普段の学校生活で体験できないことをたくさん学ぶことができたと思います。また、実行委員の準備に加え、レク係の準備がしっかりしていたのには感心しました。バス車内や夜のレクリエーションの取り組みは相当な時間をかけて計画立案してきたことをうかがわせました。

4日間の中で挨拶の声がスキーのインストラクターの方々、宿舎の方々、バスの運転手さん・ガイドさん、そして先生方に向け大きくなっていきました。そして、スキー靴の返却を係の生徒が1つ1つ丁寧にチェックをしていた様子に対して宿舎の方からお褒めの言葉をいただきました。

～スキー移動教室の作文より～

「実行委員として何ができるのか」

私は、実行委員になったとき、正直「なんで私なんだろう」と思った。なぜなら、こんな大きな仕事を任されたことがなかったからだ。こうして始まった実行委員と



夜の係会の様子



しての仕事は、私が苦手な事ばかりだった。皆への呼びかけ、注意、発表・・・。最初は慣れなかったが、何回もやっていくうちにあまり緊張しなくなった。その点では、自分でも成長したなと思った。そして、スキー教室当日。自分のできこないを胸に4日間過ごした。慣れない環境で注意を怠ることもあったが、なるべく呼びかけをするように心がけた。この4日間を通して1番思ったのは、実行委員になってよかったということ。少しでも変わったということを実感できたこのスキー教室は私にとって素晴らしい宝物になった。結果的にできこないを達成できなくてもやろうとする気持ちが自分の新しい一面を見出してくれるものとなる気がする。なので、私は挑戦し続けたい。自分のできこないが達成できるまで。そして、少しずつでも、変わっていきたいと思う。スキー実行委員になれて本当によかった。このスキー教室を無駄にしないように少しずつ変わっていきたい。



「2つの目」

私たちには2つの目がついていて2つとも生活には欠かせないものだ。だが2つもあるというのに、1つの事しか見えないことがある。今回のスキー教室での私のできこないはみんなの前でしっかり声を出すこと。ありがちのできこないだが私なりに頑張っでできこないは達成できたと思っている。でも、室長会で、私にも見えていないものがあつたことに気づいた。それは私たち生徒の悪い点だ。私は良い点しか見えていなかったのだ。いや、良い点しか見ようとしていなかったのかもしれない。そんな私の目はまだ、ダメダメだなと感じた。自分の課題に夢中になってばかりじゃなくて、周りをしっかり見ることのできる、2つの目を手に入れられるように頑張りたいと思う。そして、悪い点を見つけたら注意できる勇気を身につけたいと思う。これが出来たら私は最強だ。悪い点も良い点も見つけれられて、悪い所は注意できるのだから。とても難しいことだと思ふけど、現時点で出来ている人がいるし、かっこいいと思ふ。だから、私もそんな人になりたい。



体育館でのボール運びリレー



百人一首大会の様子

「成長した自分」

勉強が得意ではなく、どういう所で頑張れるか、いつも考えている。それでも、今回実行委員に選ばれたとき、正直一瞬「面倒くささ」としっかり出来るのかという「不安」がよぎつた。お母さんに家で「どうしよう・・・」と話したら「神様からのチャンスだ」と言われた。確かに、いつも頑張ろうと思つているだけで何もしていない事に



気づき、「頑張ろう」という気持ちに変わった。スキー教室に行くまでの準備期間、実行委員のメンバー達、武田先生と一緒に、今までの実行委員とは一味違う実行委員になる為、学年みんなに印象づける為に「劇」を試みたり、列に並ばせる為に「声掛け」を意識していた。私は、私なりにスキー教室に行く前も、本番の3日間も頑張ってやり通す事が出来たと思う。自分のできっこないも行く前に設定したので、より頑張ろうと、楽しもうと、成長しようと充実出来た行事になれたと思う。でも、自分が本当の意味で成長できているのかよく分からない。スキー教室が終わった、今日、今、この一瞬をどう過ごすのか考えて行動する事ができ、他人から見て何か変わったと思わせたら本当に成長したといえるのかなと思う。



「挑戦することの大切さ」

私が実行委員になったとき最初に思ったことは「自分が実行委員で大丈夫かな」ということでした。それは人前で話したり、自分の意見を言ったり、声をかけてまとめることが苦手だからです。その不安通り、実行委員の仕事は自分の苦手な事ばかりでした。でも、実行委員になったからにはそんなことにも挑戦しなければなりません。だから私は自分のできっこないを、自分の苦手なことの1つの「人前でしっかり話せるようになること」にしました。実行委員としてクラスの前に立った時、一気にクラスの視線が集まり、緊張してしまい、目線は下になって声も震えてしまいました。その時今まで自分が、どれだけ苦手なことに挑戦してこなかったかを改めて感じました。しかしそれは挑戦したことで気づいたことです。もし今回自分が実行委員にならなければ、挑戦せず、自分のできっこないに目を背けたままだったかもしれません。この実行委員の経験は私にとってとても大事なものになりました。こうして学んだことをスキー教室だけで終わらせることなく今後の学校生活に活かしていけたらと思っています。そして、授業中発言するというような小さな事から挑戦していきたいです。



閉講式の様子

新入生入学説明会

2月15日（金）15：30体育館で新入生入学説明会を行いました。170名近い参加者がありました。準備した椅子や資料が足りなくなるのではと心配するほどでした。2月23日（土）10時から武道場で標準服等の採寸が行われました。会場内は長蛇の列が出来ていました。多くの新入生が来年入学してくれる予感があり、楽しみにしています。



